

3BS $\geq$ FBSをH群(62人) 3BS<FBSをL群(58人)とした。

【方法】 眠前, 午前3時, 翌朝食前の自己血糖測定を2から3回施行。無自覚低血糖はアンケート調査し, 背景因子はカルテ調査した。

【結果】 3時血糖がFBSより低くなる頻度は48.3%だった。両群ではFBS, 眠前血糖に差があった。L群では眠前中間型注射が多い傾向にあった。3BSが低血糖域の7人中4人に無自覚低血糖の可能性があった。

【結語】 夕前混合型あるいは眠前の中間型注射の単位を決める場合, FBSだけでなく3時血糖も参考にすべきである。3時血糖が低血糖域の場合, 無自覚低血糖に注意する必要がある。

### 13 インスリン導入ガイドラインの作成とその有用性

百都 健・田村 紀子 (新潟市民病院)  
田中 直史 (第二内科)

【目的】 インスリン (I) 治療導入時のインスリン必要量決定に関する明確なガイドライン (G) はない。Gを作成し, その効果を検討した。

【対象と方法】 1995年にGを作成。作成前の90年, 93年, 作成後の96年, 99年に血糖コントロールを目的に入院し, I治療を導入した患者を対象とし, 各年度間の臨床背景 (年齢, 罹病期間, BMI, 入院時HbA1c, 合併症, 入院時治療法等), 在院日数, 入院医療費, 退院後3カ月 (M), 6M, 12MのHbA1cを比較することでGの有用性を検討した。

【結果】 各年度入院患者群の臨床背景には差はなかった。在院日数は90年群39.1日, 93年群34.2日に比べ, 96年群17.7日, 99年群14.1日と明らかに短縮した。入院医療費は約60万円から約40万円へ減少した。HbA1cは90年入院群3M7.1%, 12M7.8%, 93年群3M7.8%, 12M8.3%と漸増する傾向に比し96年群3M6.9%, 12M6.9%, 99年群3M7.9%, 12M7.3%と不変または低下する傾向が見られた。

【考察と結論】 Gは有用である。

## II. 特別講演

「楽しくてためになる糖尿病患者教育の実践  
—患者のやる気を引き出すノウハウ—」

神戸大学医学部衛生学講座

坂根直樹

### 第31回新潟糖尿病談話会

日時 平成14年4月20日(土)  
午後1時30分より

場所 三条・燕地域リサーチコア7F  
(県央地場産センター別館)

## I. 一般演題

### 1 超速効型インスリン治療への転換：第1報 「当院におけるペン型インスリン治療の現状と問題点」

青木 祥子・下園 光枝  
片桐 歩・小林 則子  
長部千絵子・林 泰弘 (長岡中央総合病院)  
渡辺 七朗 (薬剤部)  
八幡 和明 (同 内科)

先日発売された超速効型インスリンは, 食直前注射が可能な製剤でありこの特徴に注目し, 超速効型インスリンへの転換にむけて当院でペン型インスリン注射をしている患者さんの実態を調査し問題点を検討した。

【方法】 アンケートを実施し, 回答方法は自己記入方式で無記名。

回答患者さんの背景はカルテ調査した。

【結語】 アンケート結果より62.1%の患者さんが現在のインスリン療法に満足していることから切り換え対象を明確にすることが重要と思われる。32%の患者さんが「食直前」注射を希望と, 選